



「みらいプラネット」って何だろう？

NPO法人みらいプラネットは、平成28年12月末現在、270名の会員と15社の企業、12社の協力団体に構成されている福祉活動団体です。別名を「山口県難治性血管奇形相互支援会」とも言います。

平成23年3月発足当初は、難治性血管奇形の啓発のみの患者を中心とした会でしたが、その後、患者さんへの支援を行う中で病気そのものに対する偏見や差別によりどの患者さんも生活が脅かされている現状を深く思い知ることになりました。そのため、難治性血管奇

形患者だけでなく他の患者や障がい者など同じような悩みを持って苦しんでいる人たちが協力者とともに、NPO法人へと移行しました。

従って、みらいプラネットでは、当初からの「難治性血管奇形の啓発活動」に加え、差別や偏見をなくし人権を大切にしたい人間的に豊かな生活の実現のための「人権擁護活動」を行っています。別名として山口県難治性血管奇形相互支援会の名称は残

っていますが、難治性血管奇形患者も含めた社会的弱者の誰もが生きがいを得て生活できるような笑顔あふれる共生社会の実現をめざしています。

偏見や差別なく笑顔溢れる共生社会



す。活動内容は全国に及ぶものもありますが、主として山口県内での活動です。これまでの主な活動は、山口県議会は、

万筆を超える署名にての厚生労働省への要望などを行いました。患者さんやご家族などからの相談件数も累計500件を超えました。昨年、「他人

に配布したとことです。現在は、偏見や差別などの二次被害防止への理解のため、次世代教育や環境づくりに力を入れています。一人ひとりが身体的、精神的、社会的に良好な状態であり、個人の能力を最大限に活かすことができる環境であれば、それは長期的に社会や組織の総合力も高まるものと考え、学習教材DVDやその原原本を活用して啓発講演やイベントを行っています。

プラネットとは、恒星の周りを回転し、自らは光を放さないで恒星の光を反射する天体のことです。みらいプラネットも笑顔あふれる未来のためにお手伝いできる、頼りにされる脇役でありたいものです。(NPO法人 みらいプラネット・理事長 有富 健)

及び6市議会に「難病指定を求めろをもった健全な精神の育成」のため小中学生向けの学習教材DVDを制作し、山口県及び東京都

対する思いやりのこころをもった健全な精神の育成」のため小中学生向けの学習教材DVDを制作し、山口県及び東京都

対する思いやりのこころをもった健全な精神の育成」のため小中学生向けの学習教材DVDを制作し、山口県及び東京都

防府のNPO
4万円を寄付
熊本地震義援金、日赤に



熊本地震の義援金を日赤県支部に届けたNPO法人みらいプラネットの有富健理事長(左)＝23日、山口市

防府市のNPO法人みらいプラネット(県難治性血管奇形相互支援会)は23日、熊本地震の被災地の復興を

支援する義援金約4万円を日本赤十字社山口県支部に寄付した。

みらいプラネットなどで行く実行委員会が昨年11月に同市のルルサス防府で開催したチャリティー企画「現代国際巨匠絵画展」の収益の一部と、会場の募金箱に寄せられた浄財を充てた。

みらいプラネットの有富健理事長が山口市野田の日赤県支部を訪れ、高木邦生事務局長に義援金を手渡した。有富理事長は「熊本地震の被災者の中にも日々の医療管理が必要な方がいると思うので、少しでも役に立ててもらえるといい」と話した。

日赤県支部によると、熊本地震の義援金は20日現在、さまざまな個人・団体から総額約1億9032万円が同支部に寄せられている。

山口新聞

平成29年1月24日

救命手当て 県職員学ぶ

県庁で研修会

県は「救急の日」の9日、職員を対象にした救命手当て研修会を県庁で開いた。約50人が心肺蘇生法や自動体外式除細動器（AED）の使用法などを学んだ。

普通救命講習で、山口市消防本部の救急救命士や同市消防団の応急手当て指導員が応急手当ての必要性や心肺蘇生法の基本を解説。職員たちは人形を使って胸骨圧迫の心臓マッサージや人工呼吸といった救命処置の手順を確認し、AEDの使い方も練習した。

研修会は救急の日に合わせて2002年度から毎年実施。会計課の有富健さんは「いざ目の前で人が倒れ



たときに、迅速にAEDを使えるスキルが必要だと思う。正確な知識を身に付け、もしもの場合に対応できれば」と話していた。

救命手当て研修会で心肺蘇生法の練習をする県職員＝9日、県庁

山口新聞

平成28年9月10日